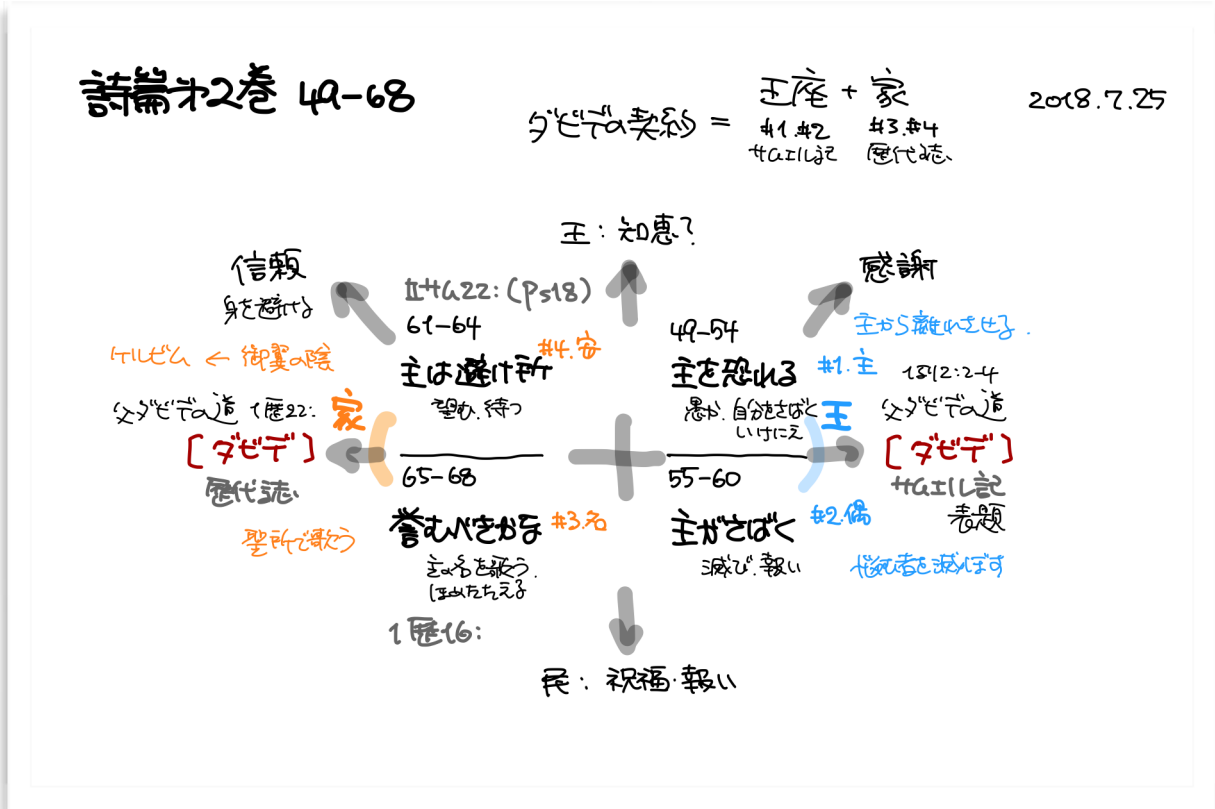




詩篇第2巻

詩篇49-60篇の配列構造



詩篇第2巻49篇から60篇まで。第2巻を4つに分けた真ん中の2つです。49篇から54篇、55篇から60篇、この部分です。

特にサムエル記、ダビデの人生を思い出すように編集されているようで、表題もそのようなものがいろいろついています。61篇からと65篇からのところは、歴代誌と書いてありますけれど、歴代誌ではなくて、第2サムエル記22章の(詩篇では18篇)、人生の終わりのところ、すべての敵から守られたあとにという安息のこと(61-64)と、家で歌うこと(65-68)という2つの家というテーマの強調ですね。こちら(49-54,55-60)は、王座が堅くされるといふ段落、王座と家の王座のほうですね。王座のほうが、2つに分かれているだろうと。

詩篇第2巻 49-60

ダビデの契約 = 王座 + 家 2018.7.31
41, #2 #3, #4
サムエル記 ~~サムエル記~~
サムエル記 22: / 16:

[ダビデ]
サムエル記
15:2-24
サムエル記

主の命令を守りかどうか。 ことば

王: 知恵?

#1. 主 主から離れさせ

49-54
主を恐る #1. 主
愚: 自分ごとく
いけにえ 王

52-54
偽言
悪言から
救わらる

49-51 1サムエル15:22-23
聞く ドエア
主のことばを

55-60
主がさばく #2. 偽
滅び、報い

58-60
悪口は
滅びる

55-57
信頼する
ゴリヤテ. (ラギヤテ)

民: 祝福、報い

#2. 偽 代償を滅ぼす

ヘブル
信仰の戦い.

“ですからキリストは、この世界に来てこう言われました。「あなたは、いけにえやささげ物をお求めにならないで、わたしに、からだを備えてくださいました。全祭のささげ物や罪のきよめささげ物をあなたは、お喜びにはなりませんでした。そのとき、わたしは申しました。「今、わたしはここに求めています。巻物の書にわたしたことが書いてあります。神よ、あなたのみこころを行うために。」”
ヘブル人への手紙 10章5-7節

“あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。「もうしばらくすれば、来たるべき方が来られる。遅れることはない。わたしの義人は信仰によって生きる。もし恐れ退くなら、わたしの心は彼を喜ばない。」しかし私たちが、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。”
ヘブル人への手紙 10章36-39節

・セザヤ
・ヨシヤ

シエルバ女
15410: , 2199:

十戒の1番目(49-54)と2番目(55-60)というように考えましたが、それをもう少し詳しく見るということで、49篇から54篇を2つに分けています。

49篇から51篇、50篇と51篇が似ています。それと、52,53,54篇。55篇から57篇。56篇と57篇が似ています。58,59,60篇。58篇と59篇は蛇と犬なのですが、偽りの舌、欺きの舌(52)と、悪の口(53)ということですので、ここも似ています。57篇の後半と60篇の後半は、この2つを合わせて108篇になっていたりしますから、この57篇と60篇は関係しているものだという事は、そこから言えます。53篇は、第1巻の14篇のところにあります。似ているものがいろいろありますけれど、まるごと同じようなものという事で、14篇があって、14篇の隣の15篇(が52)。15篇のところで言われている善を行うもの、24篇のようなものというのが、52篇かなと思いつきながら見ると、たくさん思い出さないといけない詩篇があって目が回ります。

大きく4つに分けて、まず考えるのが良いでしょう。49章から51篇。特に、いけにえの話をするところは、第1サムエル記15章、サムエルがサウルに話すところです。「主の御声に聞き従うほどに、いけにえを喜ばれるだろうか。聞き従うことはいけにえにまさる。聞き従わないことは偶像礼拝。主のことばを退けたので、王位から退けた。」と言われるところです。主の御声に聞き従う、主のことばを退けるということなのです。

この4つに分けた段落は、どれもことばの戦い。主のことばを聞く(49-51)。主のことばに信頼する(55-57)。偽りの舌から救われる(52-54)。偽りの舌は滅びる(58-60)という事で、どの段落も、主のことばなのか、サタンのことばなのか。その主のことば、サタンのことばにどう立ち向かって戦うのかということが、このダビデが主の命令を守るかどうか、その道を守るならば、ダビデの命令を守るならば、モーセの命令を守るならばと言われていた命令のことばを聞く(49-51)、そのことばに信頼する(55-57)。そのことばを裏切るような口から救われる(52-54)。サタンですね。その悪い者の口は滅びに

至る(58-60)ということで、この「ことば」ということで共通しているのではないかと思います。

ダビデの道に歩み…ということが、ソロモンの後に出てくるところで、ヒゼキヤだったり、ヨシアだったりというこのあとのストーリーのところに出てきますけど、ヒゼキヤのところでは、ラブシャケの話がありますね。ダビデとゴリアテみたいです。シェバの女王は、その聞いていた知恵の話をしたりしますので、この「ことば、知恵」ということが、この段落でテーマになっているということは、父ダビデの道に歩むということの中心だということが、そのようなことでもわかると思います。

ヘブル人への手紙の中に、いけにえの話がありますね。ヘブル人への手紙、9章に金の香壇、贖罪蓋とありますけれども、10章5節に「あなたは、いけにえやささげものを望まないで、わたしのためにからだを造ってくださいました。みこころを行うために来ました。みこころを行う、命令に聞き従う、仕えるために来ました」というこの箇所は40篇の引用なのですけど、「いけにえを望まないで」ということが言われます。

ヘブル人への手紙
信仰の真意

"ですからキリストは、この世界に来てごう言われました。「あなたは、いけにえやささげ物をお求めにならないで、わたしに、からだを備えてくださいました。全祭のささげ物や罪のきよめやささげ物をあなたは、お喜びにはなりません。そのとき、わたしは申しました。「今、わたしはここに来ております。巻物の書にわたしが書いてあります。神よ、あなたのみこころを行うために。」"
ヘブル人への手紙 10章5~7節

"あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。『もうしばらくすれば、来るべき方が来られる。遅れることはない。わたしの義人は信仰によって生きる。もし恐れ退くなら、わたしの心は彼を喜ばない。』しかし私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。"
ヘブル人への手紙 10章36~39節

・ヒゼキヤ
・ヨシア
シェバ女王
1340: 279:

それで、そのみことばに従うかどうかという戦いをするとところですけど、11章の信仰の先祖たちの戦いの箇所の前にあります。(10:35-39)「あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。『もうしばらくすれば、来るべき方が来られる。おそくなることはない。わたしの義人は信仰によって生きる。もし、恐れ退くなら、わたしのこころは彼を喜ばない。』私たちは恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者である。」

恐れ退いて滅びる者ではなくて(58-60)、信じて救われる者である(52-54)。その信仰の約束のものを手に入れるために必要な忍耐というのは、主のことばに信頼する、主の約束に信頼する(49-51,55-57)という戦いであるということが、この詩篇2巻の49篇から60篇のところでも教えられているということですので、そのような概略になっているのではないかなと。

49篇からと52篇からのほうは、主から。主と民。主から離れないという話。55篇からと58篇からは、実際に敵がいますけど、敵の攻撃があっても、敵から離れる。悪者と一緒に偶像に導かれない。偶像のほうに行かないというのが、この55篇からと58篇からではないかと今のところ考えています。